

第問 次のⅠとⅡの古文は同じ話題について書いたものだが、それぞれ別の作品の文章である。これを読んで、後の問に答えよ。

Ⅰ (注1) 亭子の帝、(注2) 鳥飼院におはしましたにけり。例のごと、御遊びあり。「このわたりの (1) うかれめども、あまたま

ありてさぶらふなかに、(2) 声おもしろく、よしあるものは侍りや」と問はせたまふに、うかれめばらの申すやう、「大江の玉淵がむすめと申す者、めづらしうまゐりて侍り。」と申しければ、見せたまふに、さまかたちも清けなりければ、あはれがりたまうて、うへに召しあげたまふ。「そもそもまことか。」など問はせたまふに、鳥飼といふ題を、みなみな人々によませたまひにけり。仰せたまふやう、「玉淵はいとらうありて、歌などよくよみき。この鳥飼といふ題を (3) よくつかうまつりたらむにしがたがひて、まことの A とはおもほさむ」と仰せたまひけり。うけたまはりて、すなはち、

あさみどりかひある春にあひぬればかすみならねど (4) たちのぼりけり

とよむ時に、帝、(5) ののしりあはれがり(注3) たまで、御しほたれたまふ。人々もよく、酔ひたるほどにて、酔ひ泣きいとなくす。帝、御桂ひとかさね、はかまたまふ。「ありとある上達部、みこたち、四位五位、これに物ぬぎてとらせざらむ者は、座より立ちね」とのたまひければ、かたはより、上下みなかつけたれば、かづきあまりて、ふた間ばかり積みてぞおきたりける。かくて、かへりたまふとて、南院の七郎君といふ人ありけり、それなむ、このうかれめのすむあたりに、家つくりてすむと聞しめして、それになむ、(6) のたまひあづけたる。「かれが申さむこと、院に奏せよ。院よりたまはせむ物も、かの七郎君につかはさむ。すべてかれにわびしきめな見せそ」と仰せたまうければ、つねになむ (7) とぶらひかへりみける。

Ⅱ 亭子院、鳥養院にて御遊ありけるに、「とりかひ」といふことを人々によませられけるに、あそびあまた参り集まれり。その中に歌よくうたひて声よきものありけるを問はるるに、「丹波の守玉淵がむすめ白女」となん申しけり。御門、御船めしよせて、玉淵は詩歌にたくみなりしものなり、その女ならばこの歌よむべし、さらばまこととおぼしめすべきよし仰せらるるに、ほどへずよみける、

ふかみどりかひある春にあふときは霞ならねど (8) 立ちのぼりけり

御門ほめあはれみ給ひて、御桂一重^{ひとかさね}たまはせけり。その外、上達部・Bおのおの衣^{きぬ}ぬぎてかづけられければ、二間ばかりに積みあまりけるとなん。

(注1) 亭子の帝——宇多天皇。

(注2) 鳥飼院——淀川の川辺にあった離宮。

(注3) たまて——たまひて、のこと。

問一 二重傍線 a、b のよみを歴史的仮名遣いで記せ。

問二 傍線 (1) の語の意味を、Ⅱの対応する部分を参考にして漢字二字で書け。

問三 (2) (5) の口語訳としてもつとも適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

(2)

- 1 声が趣深く、かつて女房だった者はおりますか。
- 2 声が美しく、奥ゆかしい様子の者はおりますか。
- 3 声が面白い感じで、管弦の上手な者などいるだろうか。
- 4 声が靈妙で、漢詩の才能をもつ者などいるだろうか。

(5)

- 1 はやしたててお褒めになり、しみじみと涙をお流しになる。
- 2 驚きの声をあげて感銘され、仰々しく目を押さえなさる。
- 3 口をきわめて罵倒なさり、落胆のあまりふざぎこみなさる。
- 4 声高く騒いで同情なさり、悲しみのあまりお泣きになる。

問四 空欄 A、B に入れるべき適当な語を、次の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークせよ。

- 1 帝
- 2 子
- 3 殿上人
- 4 玉淵
- 5 うかれめ
- 6 七郎君
- 7 妹
- 8 丹波の守
- 9 姉妹
- 10 親

問五 1 Iの歌の傍線(4)には、詠者の、思ってもみなかった喜びが表されているが、その喜びは帝のどのような配慮によるものか、帝の配慮が示されている部分を、Iの文中から十二字以内で抜き出せ。

2 IとIIの歌は同じ喜びの心情をうたっているのに、IIの傍線(8)でその喜びの理由が分かりにくくなっているのはなぜか。分かりにくくしている原因と考えられる部分を、IIの文中から十二字以内で抜き出せ。

問六 傍線(3)(6)(7)の主語は誰か。次の中から適当なものをそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークせよ。

- 1 帝
- 2 玉淵
- 3 玉淵のむすめ
- 4 七郎君
- 5 上達部
- 6 うかれめばら

問七 Iは『伊勢物語』に次ぐ平安時代前期の歌物語、IIは橘成季が撰んだ鎌倉時代の説話文学である。それぞれの作品名を次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 宇津保物語
- 2 竹取物語
- 3 打聞集
- 4 古今著聞集
- 5 後拾遺集
- 6 落窪物語
- 7 大和物語
- 8 今昔物語
- 9 堤中納言物語
- 10 日本霊異記

【解答例】 明治大 経営 平14

問一 a || おほ b || 多

問二 遊女(Ⅱの「あそび」から)

問三 (2) || 5 (5) || 1

問四 A || 2 B || 3

問五 1 || うへに召しあげたまふ。(二一字)

2 || 御門、御船めしよせて、(二一字)

問六 (3) || 3 (6) || 1 (7) || 4

問七 I || 7 II || 4

【通釈】 〇

I 亭子の帝(宇多天皇)が、鳥飼院(現在の大阪府摂津市三島町鳥飼にあった離宮)においてになった。いつものように管弦(音楽)のお遊びがあった。(宇多天皇が)「このあたりの遊女たちが、大勢参って控えておりますなかに、声が美しく、おくゆかしいようすの者はおりますか」とお尋ねなされたところ、遊女たちが申すことには、「大江の玉淵(大江音人の子。日向守)の娘と申す者が、めずらしく参っております」と申したので、ご覧なさると「見せ」の「せ」は尊敬の助動詞「す」の連用形、姿や容貌もござっぱりとして美しげな感じであったので、(天皇は)しみじみと感動なさって、殿上のお側近くにお呼び寄せなさせる。天皇が「いったい(おまえが玉淵の娘ということ)ほんとうか」などとお尋ねなさるが、(その時に)「鳥飼」という(歌の)題を、(その場にいた)すべての人々に(和歌に)お詠ませなされた。(天皇が)仰せなさることには、「玉淵はたいそう物事に精通していて、和歌など上手に詠んだ。この「鳥飼」という題を上手に和歌に詠み申すならば、それによって(その女を)ほんとうに玉淵の子と思う。(「おもほさ」は「思ふ」の尊敬の動詞「おもほす」の未然形で、天皇の会話中の自尊敬語になっている。)

と仰せになった。(その女はお言葉を) お聞き申して、すぐに、

あさみどり……薄緑色にかすむ、生きがいのある春にめぐりあつたので、霞ではないわたくしだが、春霞が立ち上るように、この御殿にのぼることができましたよ「あさみどりかひある」に「鳥飼」が詠みこめられている

と、詠むときに、天皇は大声をあげてはやしたてておほめになり、しみじみと涙をお流しなさる。(その場にいた) 人々も十分に酔っている時であつて、(感動して涙もろくなつて) 酔い泣きをこの上なくした。天皇は、御桂一かさねと袴をお与えなさつた。(そして)「ここにいるすべての上達部(三位以上の公卿と四位の参議)や皇子たちや四位五位(の殿上人)の者で、この女に衣服を脱いで(ほうびとして)与えないような者は、この座から立ち去つてしまえ」とおっしゃつたので、(この座の人々は)片端から(順々に)、位の上位の人も下位の人も皆(衣服を)与えたので、(女は衣服を)肩にかけきれないで、二間「二間」には部屋の意と柱と柱の間とすると二説ある」ほどに積んでおいたのであつた。このようにして、(天皇は都へ)お帰りなさるといふ(時に)、南院の七郎君という人がいたが、その人がこの遊女「玉淵の娘」の住んでいるあたりに、家を作つて住んでいると(天皇がお聞きになつて、その人「南院の七郎君」に(その遊女を)あずかつて世話をするようにお命じなされた。(天皇が)「この女が申すようなことは、院「御所」へ申し上げよ。院から御下賜になるような物も、あの七郎君のもとへ(使いを立てて)つかわそう。万事この女につらい目を見せないようにせよ」とおっしゃつたので、(七郎君は)つねに訪れて世話をしていた。

II 宇多天皇が、(淀川の川辺にあつた離宮の)鳥養院「鳥飼院」で管弦のお遊びをなさつた時に、「とりかひ」ということを人々に(和歌に)お詠ませなさつたが、(その場に)遊女が大勢参り集まつていた。その中に歌を上手に歌つて声のきれいな者がいたのを、(天皇が)誰かとお尋ねになつたところ、「丹波守(大江の)玉淵の娘の白女(でございます)」と申し上げた。天皇は、御乗船を(その女のいる方へ)寄せられて、「玉淵は詩歌に巧みであつた者である。その娘であるならば、この「とりかひ」といふ)歌を詠め。それが上手に詠めたならば、(お前の申すことを)ほんとうのことと思おう「おぼしめす」は「自尊敬語」と言うことを仰せになると、(女は)たちどころに(歌を)詠んだ。

ふかみどり……薄緑が深くなつて生きがいのある春にめぐりあうときには、わたしは春霞ではないが、霞が立ちのぼるように、

私の心も喜びのあまり立ちのぼりましたよ。「この鳥養の御殿にのぼることができたのでございますよ」の意を含む。」
天皇は（この歌を）ほめ感心なさって、御桂ひとかさねをお与えなされた。そのほか、上達部や殿上人はめいめい衣服を脱いで
（ほうびとして）女の肩にかけ与えなされたので二間ほどに積みあがったと（いうことであった）。